

自治医科大学看護師特定行為研修センター年次報告



2020 年度

2021 年 6 月

自治医科大学看護師特定行為研修センター

Jichi training center for nurse designated procedures (J-ENDURE)

目 次

I 看護師特定行為研修センターの事業概要

1. 看護師特定行為研修センター概要……………1
2. 看護師特定行為研修センター関連委員会……………2
3. 看護師特定行為研修センター教職員概要……………3
4. 看護師特定行為研修センター協力施設概要……………3
5. 看護師特定行為研修センターの主な取り組み等……………4
6. 入講生、修了生の概要……………6

II 看護師特定行為研修センター活動報告

- 1) 教育報告……………11
- 2) 研究報告……………38

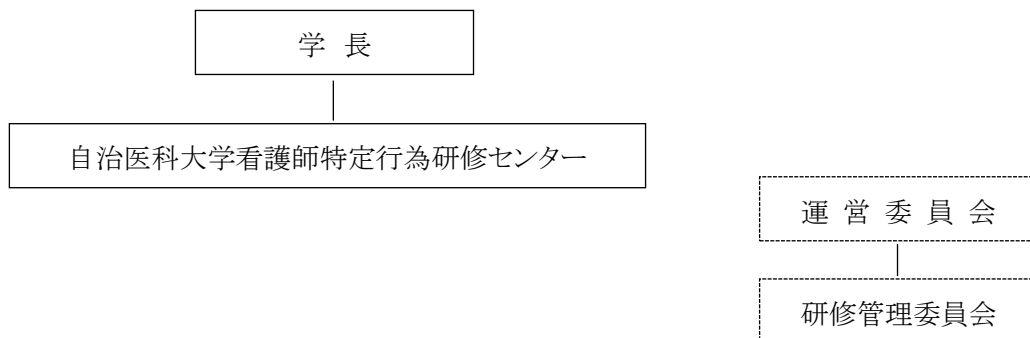
I 看護師特定行為研修センターの事業概要

1. 特定行為研修センター概要

特定行為研修センターは、自治医科大学が保健師助産師看護師法(昭和 23 年法律第 203 号)第 37 条の 2 に基づく指定研修機関として特定行為研修を適切に実施するため設置された(自治医科大学看護師特定行為研修センター設置規程 昭和 27 年規程第 59 号)。

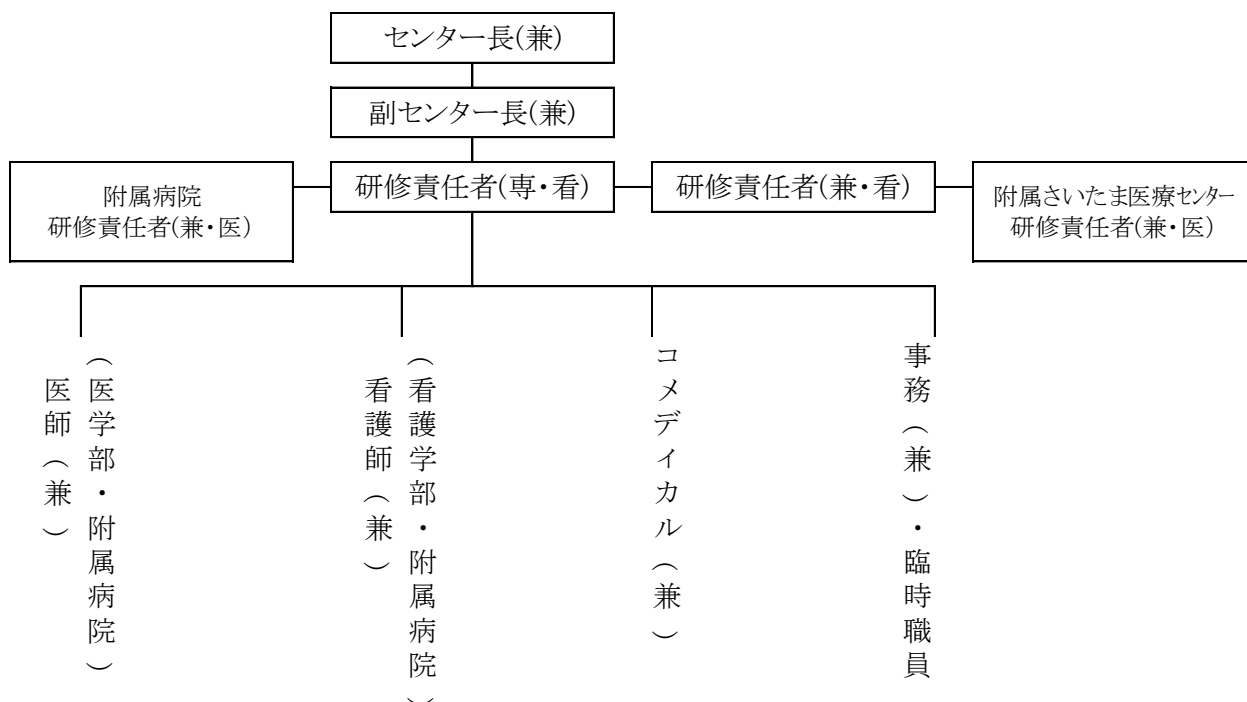
組織体制

大学における位置付けは、大学の組織とし、学長の直属機関とする。
センターの運営を円滑に行うため「運営委員会」を設置する。



センターの構成員

センター長、副センター長、研修責任者(うち 1 名は専従)、指導者・指導補助者及びその他の職員で構成する。



※附属病院とは、附属病院と附属さいたま医療センターを示す

2. 特定行為研修センター関連委員会

特定行為研修センターは、下記の委員会を設置し、管理・運営や教育・評価内容の妥当性などを検討し、審議している。

- ・特定行為研修運営委員会(2ヶ月に1回の年6回開催)
- ・特定行為研修管理委員会(年2回、9月及び3月に開催)
- ・特定行為研修安全管理委員会(必要時 臨時開催)
- ・科目担当者会議(年6回)

1) 特定行為研修運営委員会

特定行為運営委員会の構成員はセンター長を中心に17名で構成され、主にセンターの運営を円滑に行うための以下の事項を審議する。

- (1) 施設及び設備の整備に関すること
- (2) 適切な指導体制の確保に関すること
- (3) 医療に関する安全管理のための体制の確保に関すること
- (4) 規程等の整備に関すること
- (5) 自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会及び自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会に関すること
- (6) その他、特定行為研修の実施に関する必要なこと

2) 特定行為研修管理委員会

特定行為研修管理委員会には外部委員を含め15名で構成され、以下の審議を行う。

- (1) 特定行為区分ごとの特定行為研修計画の策定に関すること
- (2) 2つ以上の特定行為区分について、特定行為研修を行う場合の特定行為研修の相互間の調整に関すること
- (3) 受講者の履修状況の管理に関すること
- (4) 修了の際の評価などに関すること
- (5) その他、特定行為研修の実施及び管理に関すること

3) 特定行為研修安全管理委員会

特定行為研修センター専従研修責任者の招集により、事故等報告書が提出された場合に、研修責任者ならびに該当科目の指導者等の関係者で構成され、安全管理に関する審議を行う。

4) 科目担当者会議

研修生の学習進捗状況や教育内容に関する情報の共有を行う。科目担当者会議は看護学部および看護師特定行為研修センター教員を中心に特定行為研修に関わる看護学系教員で構成されている。

2020年度は特定行為研修運営委員会と特定行為研修管理委員会に関しては、Microsoft Teams を利用した Web 会議となった。また、特定行為研修安全管理委員会の開催はなかった。

3. 特定行為研修センターの教員概要

1) 共通科目

共通科目では指導者として 32 名、指導補助者として 14 名が教育に関わった。

年度	指導者	指導補助者
2020 年度	32 名	14 名

2) 区分別科目

区分別科目では指導者として 109 名、指導補助者として 43 名が教育に関わった。客観的臨床能力試験の外部評価者は、5 名であった。

年度	指導者	指導補助者
2020 年度	109 名	43 名

4. 協力施設の概要

区分別科目の実習では、条件を満たす受講生の自施設を協力施設として申請し、自施設で実習を行うことができる研修体制・指導体制を調整した。

条件: 指導者となる医師の確保 (臨床研修医指導者講習会受講歴有)、実習期間の症例数の確保 (半期 10 症例以上)、医療安全体制の連携、学習環境の確保など

年度	協力施設	指導者
2020 年度	65 施設	284 名

5. 特定行為研修センターの主な取り組み等

特定行為研修センターは、2019年4月に術後疼痛管理関連、2019年10月に在宅・慢性期領域パッケージ、外科術後病棟管理領域パッケージの受講を可能にし、計20特定行為区分、2種類の領域別パッケージ研修の受講が可能になった。また、特定行為研修制度の変更に伴い2019年10月より共通科目、区分別科目の時間数を短縮し開講した。さらに、2020年度には新たに外科基本領域パッケージ、術中麻酔管理領域パッケージ、集中治療領域パッケージの3種類の領域パッケージが開講した。

特定行為研修センターでは、開講時より以下の研修目的・目標を掲げ、研修を行っている。

研修目的

地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成する。

研修目標

- 1) 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。
- 2) 地域医療及び高度医療の現場において、患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実行できる基礎的能力を養う。
- 3) 地域医療及び高度医療の現場において、問題解決にむけて、多職種と効果的に協働できる能力を養う。
- 4) 自らの看護実績を見直しつつ、標準化する能力を養う。

2020年度は、COVID-19の影響を受け、新規の受講生を4月のみ定数30名(各特定行為区分の定数は、実習期間ごとに上限5名)の受講生を募集した。その他に、区分別科目を追加受講する受講者の受け入れを行った。また、2020年4月期の区分別科目の本試験、実習は2020年10月まで延期とし、遠隔学習のみで研修を実施した。

募集の広報活動は看護学部、看護学研究科の教育に関連している病院、施設等を中心に実施するとともに、都道府県の看護協会にも広報用のリーフレット配布を行った。また、大学附属病院である2施設には、看護部を通じて募集案内を行った。看護系雑誌や医学系新聞等への募集記事掲載も継続して実施した。大学内へは、入講式ならびに修了式に関して学内広報誌にて周知した。

教育活動としては、講義と演習のほとんどでICT(Information Communication Technology)を用いた。学習支援システムとしてMoodleとMaharaを連動させているため、COVID-19の影響を受けながらも例年通りの受講状況を維持することができた。実習においては、集合研修を最小限にし、共通科目の基礎実習のみ大学または附属両病院にて行った。区分別科目では可能な限り受講生の自施設を協力施設として申請し、就労継続しながらの実習を可能とした。協力施設での実習により、COVID-19の影響を受けつつも、受講生が履修期間内に実習を進めることができた。緊急事態宣言等により大学または附属両病院に来学できない状況が生じた際には、受講生と相談し、履修する区分別科目の一部でも協力施設申請を行い実習できないかを受講生の所属施設と交渉するなどの対応を行った。

附属両病院の実習環境の整備としては、電子カルテ等の権限調整、各診療科への協力依頼、指導者・指導補助者への実習指導の依頼説明など附属両病院の看護部や研修責任者と協議・連携しながら行った。同時に、対面での研修の質の向上のため、動脈血液ガス分析関連やPICC関連、呼吸器(人工呼吸

療法に係るもの)関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連などは、関連企業と連携した外部研修を積極的に提供した。

2018 年度から実施している区分別科目の研修修了後のフォローアップ研修は継続して実施した。また、これまでと同様に、修了生への特定行為制度に関する情報提供、修了生間の情報提供、フォローアップの研修企画の案内、研修生の学会や依頼公演等のサポートを行った。

そのほか、他の指定研修機関の申請準備や研修教育の質問等に関しては、積極的に対応した。また、各種学会の学術集会やシンポジウム、都道府県行政からの説明会などの講演依頼は受けるようにし、修了生の講演依頼の推薦なども行い、本研修制度の普及に最大限努めた。さらに、修了生の活動の実態や評価につながる調査研究、指定研修機関の実態や課題への取り組みのための調査研究にも取り組んだ。

さらに、研修に関わる指導者の養成を行うために、第 3 回看護師特定行為研修指導者講習会を開催し、24 名が講習を修了した。指導者講習会修了者 24 名中、本研修センターの修了生が 9 名おり、今後本研修の実習指導及び観察評価試験 (OSCE) の外部・内部評価者として、研修指導を担うことが期待される。

6. 入講生、修了生の概要

2020年度はのべ42名が入講した。そのうち再入講者は12名であった。(※再入講者とは2年の在籍期間を終え、再度入講した研修生である)

1) 入講生の概要

2020年度は4月期38名、10月期4名が入講した。入講生の所属施設概要ならびに年代および性別を表1・表2に示す。入講生の所属施設は「その他の病院」が11名と最も多く、次いで「自治医科大学附属病院」が8名、「自治医科大学附属さいたま医療センター」が5名であった。「訪問看護ステーション」からは5名が入講した。入講生の年代は30代～40代が8割を越えた。男女比は、例年は全体の7割以上が女性であることが多かったが、2020年度は男女比がおおよそ同率となった。

入講時の区分別科目受講希望状況を表3に示す。「栄養・水分管理に係る薬剤投与関連」、「動脈血ガス分析関連」、「呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連」の受講希望が多かった。その理由として、上記3区分は「術中麻酔管理領域パッケージ」と「外科術後病棟管理領域パッケージ」に含まれているため増加したことが推察される。2019年度同様、研修生1人当たりの受講希望科目数が増加していることも、区分別科目希望数が173区分になった原因と考えられる。

表1 2020年度の入講生の所属施設種別

施設種別	4月期	10月期	合計 (名)
自治医科大学附属病院	8	0	8
自治医科大学附属さいたま医療センター	5	0	5
看護学研究科	0	0	0
訪問看護ステーション	5	0	5
へき地診療所	0	0	0
へき地医療拠点病院	8	1	9
その他の病院	11	2	13
その他(障害者施設、特養、診療所、NPO団体)	1	1	2
合計	38	4	42

表 2 2020 年度の入講生の年代および性別

年代	性別	4 月期	10 月期	男女別計	計	
20 代	男性	1	0	1	1	2.4%
	女性	0	0	0		
30 代	男性	10	1	11	18	42.8%
	女性	7	0	7		
40 代	男性	4	3	7	17	40.5%
	女性	10	0	10		
50 代	男性	1	0	1	6	14.3%
	女性	5	0	5		
合計	男性	16	4	20 (47.6%)	42	100.0%
	女性	22	0	22 (52.4%)		

表 3 2020 年度の入講生の区分別科目希望数

※入講時のデータであり、入講後の取り消し及び追加等は含まない

区分別科目名	4 月期	10 月期	計
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	14	0	14
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	16	0	16
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	13	0	13
循環器関連	2	0	2
胸腔ドレーン管理関連	6	1	7
腹腔ドレーン管理関連	7	0	7
ろう孔管理関連	7	0	7
栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	9	0	9
栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	11	1	12
創傷管理関連	7	1	8
創部ドレーン管理関連	8	0	8
動脈血液ガス分析関連	19	0	19
透析管理関連	0	0	0
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	23	1	24
感染に係る薬剤投与関連	0	0	0
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	4	0	4
術後疼痛管理関連	11	0	11
循環動態に係る薬剤投与関連	14	0	14
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	0	0	0
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	2	0	2

計	173	4	177
在宅・慢性期領域パッケージ	6	0	6
外科術後病棟管理領域パッケージ	6	0	6
術中麻酔管理領域パッケージ	5	0	5
計	17	0	17

2) 修了生の概要

当センターの研修では、共通科目と区分別科目を受講し最短でも1年間の受講が必要となる。COVID-19の影響を受け、2020年4月期の本試験・実習を2020年10月まで延期したことから、2020年9月の修了生は0名、2021年3月修了生は53名であった(表4)。

表4 2020年度の区分別科目修了数

区分別科目名	9月	3月	計
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	0	11	11
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	0	11	11
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	0	14	14
循環器関連	0	0	0
胸腔ドレーン管理関連	0	5	5
腹腔ドレーン管理関連	0	7	7
ろう孔管理関連	0	7	7
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	0	5	5
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	0	8	8
創傷管理関連	0	11	11
創部ドレーン管理関連	0	6	6
動脈血液ガス分析関連	0	17	17
透析管理関連	0	0	0
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	0	14	14
感染に係る薬剤投与関連	0	3	3
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	0	8	8
術後疼痛管理関連	0	4	4
循環動態に係る薬剤投与関連	0	6	6
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	0	1	1
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	0	1	1
計	0	139	139
在宅・慢性期領域パッケージ	0	2	2
外科術後病棟管理領域パッケージ	0	2	2
術中麻酔管理領域パッケージ	0	1	1
計	0	5	5

2021年3月に修了した受講生の入講時の区分別科目希望数は114区分であった。しかし、区分を追加した受講者が多かったため、修了区分数が139区分と大きく上回った（2019年度年次報告書参照）。COVID-19の影響を受け、自治医科大学附属病院やさいたま医療センターでの実習件数に制限がある状況でも修了区分数が増加した理由としては、例年以上に協力施設を拡大し実習対応したことが理由の一つであるといえる。しかし、協力施設で実習する科目数が多い場合、駆け込み的に実習を修了する受講者が増えることや、研修期間を半年から1年以上に延長することも多くなる傾向も明らかになった。これは、協力施設での実習は実習期間を長く確保できるメリットがある反面、業務と実習の両立が難しいこと、そもそもの受講希望科目数が多すぎることが理由だと推察された。当センターのこれまでの実習進捗状況を鑑みると、半年で実施可能な科目数の目安として、選択する科目の種類にも影響を受けるが、概ね4～5科目が無理なく受講できる数と考える。今後、協力施設で実習する場合には、研修生に対して看護管理者と勤務や実習調整を行い協力施設内での支援を確保するよう促すだけでなく、入講時の希望数に関しても半年で4～5科目など具体的かつ実施可能な範囲で選択するように支援する必要がある。

パッケージ受講する場合、多い場合12区分を半年で実習することになるため、パッケージ受講者には、所属施設との勤務調整を実習開始前から行うように説明し、所属施設の積極的フォロー体制を得て研修が進められるように促すことが、研修成果を高める上でも重要であるといえる。

Ⅱ 看護師特定行為研修センター活動報告

1. 教育内容

4 月期共通科目

(1).臨床推論/フィジカルアセスメント I

a. スタッフ

指導者	松村正巳 鈴木義彦 八木街子
指導補助者	里光やよい

b. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程(フィジカルアセスメント含む)について学修する。

c. 3)時間数

34 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

26/29 名

(2).臨床推論/フィジカルアセスメント II

a. スタッフ

指導者	松村正巳 鈴木義彦 八木街子
指導補助者	里光やよい

b. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

c. 時間数

26 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

28/30 名

(3).病態生理／疾病論 I

a. スタッフ

指導者	倉科智行 関山友子
指導補助者	春山早苗 平尾温司

b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

c. 時間数

42 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

28/29 名

(4).病態生理／疾病論 II

a. スタッフ

指導者	倉科智行 関山友子
指導補助者	春山早苗 平尾温司

b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的に迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

c. 時間数

54 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

27/30 名

(5).臨床薬理学

a. スタッフ

指導者	今井靖 大塚公一郎 村上礼子
指導補助者	江角伸吾 大友慎也

b. 学習目的

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。

代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

c. 時間数

42 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

単元ごとに事後テストを行い、100 点満点をもって、次の単元に進む。

最終単元修了後、修了試験(筆記試験)を受験する。修了試験は 100 点満点で、60 点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

f. 科目取得状況

27/30 名

(6).医療安全学

a. スタッフ

指導者	新保昌久 遠山信幸 村上礼子
指導補助者	川上勝 関山友子 浅田義和 寺山美華 亀森康子 八木街子

b. 学習目的

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

c. 時間数

24 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)、演習

e. 評価方法

筆記試験(最終回)

小テストまたは課題レポート(各回)

f. 科目取得状況

30/30 名

(7).特定行為と手順書

a. スタッフ

指導者	新保昌久 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	関山友子 渡井恵 里光やよい

b. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

c. 時間数

30 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

28/29 名

(8).特定行為と基礎実習 I

a. スタッフ

指導者	松村正己 白石裕子 鈴木義彦 森壘 大塚公一郎 村上礼子 倉科智行 八木街子 鈴木美津枝
指導補助者	春山早苗 川上勝 関山友子 江角伸吾 浅田義和 大友慎也 里光やよい

b. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

c. 時間数

38 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

eラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。
集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

f. 科目取得状況

26/26 名

(9).特定行為基礎実習Ⅱ

a. スタッフ

指導者	松村正巳 石川鎮清 畠山修司 松山泰 石川由紀子 山本 祐 新保昌久 釜田康行 井野裕治 大貫次利 倉科智行 菅原 斉 藤田英雄 山口泰弘 崎山快夫 真嶋浩聡 賀古真一 原 一雄 小竹 茂 森下義幸 遠山信幸 村上礼子 八木街子 鈴木美津枝
指導補助者	亀森康子 里光やよい

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

25 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価:病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

f. 科目取得状況

26/26 名

2. 区分別科目

(10). 呼吸器関連 気道確保 I

a. スタッフ

指導者	讚井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 富永経一郎 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 平幸輝 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	里光やよい 古島幸江 八木街子 鈴木美津枝 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 遠藤沙希 草浦理恵

b. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

8 時間

d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

13/14 名

(11). 呼吸器関連 気道確保 II

a. スタッフ

指導者	讚井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚祐史 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 富永経一郎 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 平幸輝 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	里光やよい 古島幸江 八木街子 鈴木美津枝 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 遠藤沙希 草浦理恵

b. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク(BVM)を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

15 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、身体診察、医療面接、他職種との調整などに関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。 実技試験 OSCE

f. 科目取得状況

12/14 名

(12). 呼吸器関連 人工呼吸療法 I

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 富永経一郎 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 平幸輝 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	古島幸江 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 遠藤沙希 草浦理恵 里光やよい 八木街子 鈴木美津枝

b. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

39 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

12/13 名

(13). 呼吸器関連 人工呼吸療法 II

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 富永経一郎 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 平幸輝 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	古島幸江 谷島雅子 荒井和美 八木橋智子 遠藤沙希 草浦理恵 里光やよい 八木街子 鈴木美津枝

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

24 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、人工呼吸療法に関する評価基準をもとに指導医より評価をうける

f. 科目取得状況

11/14 名

(14). 呼吸器関連 長期呼吸療法

a. スタッフ

指導者	西野宏 伊藤真人 佐々木徹 島田茉莉 長友孝文 小野滋 馬場勝尚 清水敦 讃井将満 塩塚潤二 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	黒田光恵 喜田幸子 増田友希 八木橋智子 草浦理恵 里光やよい 八木街子 鈴木美津枝

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

21 時間

d. 研修方法

講義、実習

e. 評価方法

筆記試験、実技試験 (OSCE)

観察試験:病棟実習中に対象者の了解を得て、気管カニューレの交換に関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。

f. 科目取得状況

14/14 名

(15). 循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS 等) I

a. スタッフ

指導者	清水勇人 相澤啓 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 山本慶 讃井将満 塩塚潤二 村上礼子
指導補助者	神山淳子 八木橋智子 草浦理恵 小久保領 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

22 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

1/2 名

(16). 循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS 等) II

a. スタッフ

指導者	清水勇人 相澤啓 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 山本慶 讃井将満 塩塚潤二 村上礼子
指導補助者	神山淳子 八木橋智子 草浦理恵 小久保領 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

c. 時間数

24 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

0/3 名

(17). 胸腔ドレーン管理関連 I

a. スタッフ

指導者	相澤啓 金井義彦 坪地宏嘉 遠藤俊輔 大谷真一 清水敦 村上礼子
指導補助者	梶原絢子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する
胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

c. 時間数

18 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

6/6 名

(18). 胸腔ドレーン管理関連 II

a. スタッフ

指導者	相澤啓 金井義彦 坪地宏嘉 遠藤俊輔 大谷真一 清水敦 村上礼子
指導補助者	梶原絢子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。
低圧胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

5/6 名

(19). 腹腔ドレーン管理関連 I

a. スタッフ

指導者	清水敦 斎藤心 井上賢之 力山敏樹 宮倉安幸 齋藤正昭 村上礼子
指導補助者	深野利恵子 里光やよい 鈴木美津枝

b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

c. 時間数

10 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

7/7 名

(20). 腹腔ドレーン管理関連 II

a. スタッフ

指導者	清水敦 斎藤心 井上賢之 力山敏樹 宮倉安幸 齋藤正昭 村上礼子
指導補助者	深野利恵子 里光やよい 鈴木美津枝

b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価:病棟実習では指導者から観察評価を受ける。

f. 科目取得状況

7/7 名

(21). ろう孔管理 I

a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 齊藤心 井上賢之 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 宮倉安幸 加藤高晴 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	黒田光恵 高安郁江 深野利恵子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

胃ろう, 腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

10 時間

d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

7/7 名

(22). ろう孔管理 II

a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 齊藤心 井上賢之 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 宮倉安幸 加藤高晴 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	黒田光恵 高安郁江 深野利恵子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

胃ろう, 腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識, 判断と手技を修得する。

c. 時間数

15 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

OSCE

観察評価: 外来・病棟実習中に対象者の了解を経て, カテーテル・ボタン交換に関わる評価基準の確認を指導者より受ける。

f. 科目取得状況

7/7 名

(23). ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅲ

a. スタッフ

指導者	藤村哲也 安藤聡 宮川友明 齊藤公俊 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	田村敦子 高安郁江 深野利恵子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

1. ろう孔造設に関連する病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

10 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

試験(毎回の事後テストの内容を筆記試験に充当させる)

評価の時期:講義終了後

f. 科目取得状況

5/5 名

(24). ろう孔管理(膀胱ろうカテーテルの管理)Ⅳ

a. スタッフ

指導者	藤村哲也 安東 聡 宮川友明 齋藤公俊 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	田村敦子 高安郁江 深野利恵子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

c. 時間数

15 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

OSCE

観察評価:外来実習中に対象者の了解を得て、評価基準の確認を指導者より受ける。

f. 科目取得状況

5/5 名

(25). 栄養に係るカテーテル管理: 中心静脈カテーテルの抜去 I

a. スタッフ

指導者	相澤啓 清水敦 讃井将満 塩塚潤二 村上礼子
指導補助者	神山淳子 八木橋智子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

c. 時間数

6 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

6/6 名

(26). 栄養に係るカテーテル管理: 中心静脈カテーテルの抜去 II

a. スタッフ

指導者	相澤啓 清水敦 讃井将満 塩塚潤二 村上礼子
指導補助者	神山淳子 八木橋智子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)を用いて評価する。

f. 科目取得状況

5/7 名

(27). PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 I

a. スタッフ

指導者	大嶺謙 翁家国 清水敦 賀古真一 仲宗根秀樹 布宮伸 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	森山海美 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入の根拠と方法を学習する。

c. 時間数

6 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

最終回に e-learning による筆記試験

f. 科目取得状況

8/8 名

(28). PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 II

a. スタッフ

指導者	大嶺謙 翁家国 清水敦 賀古真一 仲宗根秀樹 布宮伸 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	森山海美 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

c. 時間数

15 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

3 日目午前に OSCE による実技評価、最終日までに観察評価

f. 科目取得状況

8/10 名

(29). 創傷管理関連 褥瘡 I

a. スタッフ

指導者	前川武雄 出光俊郎 山本直人 太田信子 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	田口深雪 本田芳香 深野利恵子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。

c. 時間数

27 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

27 時間(14 回)

f. 科目取得状況

11/11 名

(30). 創傷管理関連 褥瘡 II

a. スタッフ

指導者	前川武雄 出光俊郎 山本直人 太田信子 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	田口深雪 本田芳香 深野利恵子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

c. 時間数

45 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)、実習

e. 評価方法

OSCE(壊死組織除去のみ)、観察評価((壊死組織除去、陰圧閉鎖療法)

f. 科目取得状況

11/12 名

(31). 創部ドレーン管理関連 I

a. スタッフ

指導者	清水敦 斎藤心 井上賢之 北山丈二 原尾美智子 櫻木雅子 西田紗季 相澤啓 金井義彦 長友孝文 山口敦司 堀大治郎 村上礼子
指導補助者	軽部真粧美 深野利恵子 里光やよい 鈴木美津枝

b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

c. 時間数

6 時間

d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

7/7 名

(32). 創部ドレーン管理関連 II

a. スタッフ

指導者	清水敦 斎藤心 井上賢之 北山丈二 原尾美智子 櫻木雅子 西田紗季 相澤啓 金井義彦 長友孝文 山口敦司 堀大治郎 村上礼子
指導補助者	軽部真粧美 深野利恵子 里光やよい 鈴木美津枝

b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

c. 時間数

9 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

6/7 名

(33). 動脈血液ガス分析 I

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 富永経一郎 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 布宮伸 小山寛介 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	八木橋智子 谷島雅子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

16 時間

d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

18/18 名

(34). 動脈血液ガス分析 II

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 富永経一郎 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 布宮伸 小山寛介 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	八木橋智子 谷島雅子 里光やよい 八木街子

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

c. 時間数

15 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

実技試験 (OSCE)・観察評価

f. 科目取得状況

17/19 名

(35). 透析管理 I

a. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 植田裕一郎 北野泰祐 宮澤晴久 齋藤修 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	佐竹晃 内田隆行 松岡諒 里光やよい

b. 学習目的

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

c. 時間数

16 時間

d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

0/0 名

(36). 透析管理 II

a. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 植田裕一郎 北野泰祐 宮澤晴久 齋藤修 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	佐竹晃 内田隆行 松岡諒 里光やよい

b. 学習目的

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

0/0 名

(37). 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 I

a. スタッフ

指導者	石橋俊 倉科憲太郎 齊藤心 井上賢之 長田太助 吉澤寛道 賀古真一 仲宗根秀樹 清水敦 村上礼子 八木街子
指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

c. 時間数

10 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

16/17 名

(38). 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

a. スタッフ

指導者	石橋俊 清水敦 倉科憲太郎 斎藤心 井上賢之 長田太助 吉澤寛道 賀古真一 仲宗根秀樹 村上礼子 八木街子
指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

c. 時間数

9 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS を用いて評価する)

f. 科目取得状況

11/20 名

(39). 脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) I

a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 斎藤心 井上賢之 長田太助 吉澤寛道 竹内護 堀田訓久 平幸輝 森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 植田裕一郎 北野泰佑 宮澤晴久 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 八木街子
指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

b. 学習目的

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

c. 時間数

10 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

17/18 名

(40). 脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) II

a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 斎藤心 井上賢之 長田太助 吉澤寛道 竹内護 堀田訓久 平幸輝 森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 植田裕一郎 北野泰佑 宮澤晴久 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 八木街子
指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史

b. 学習目的

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

c. 時間数

9 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況

12/21 名

(41). 感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為: 感染に係る薬剤投与関連)

a. スタッフ

指導者	森澤雄司 市橋 光 福地貴彦 村上礼子 八木街子
指導補助者	田中聡子 大友慎也 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

39 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)、演習

e. 評価方法

筆記試験(中間、最終の 2 回行う)

f. 科目取得状況

2/2 名

(42). 感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為: 感染に係る薬剤投与関連)

a. スタッフ

指導者	森澤雄司 市橋 光 福地貴彦 村上礼子 八木街子
指導補助者	田中聡子 大友慎也 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

24 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

実習の観察評価

f. 科目取得状況

3/3 名

(43). インスリン投与量の調整 I

a. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 馬場千恵子 村上礼子 長谷川直人
指導補助者	鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史

b. 学習目的

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

c. 時間数

24 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

8/9 名

(44). インスリン投与量の調整 II

a. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 馬場千恵子 村上礼子 長谷川直人
指導補助者	鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史

b. 学習目的

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価 課題レポート

f. 科目取得状況

8/10 名

(45). 術後疼痛管理関連

a. スタッフ

指導者	竹内護 堀田訓久 平幸輝 坪地宏嘉 金井義彦 細谷好則 清水敦 齊藤心 井上賢之 遠藤俊輔 大谷真一 力山敏樹 宮倉安幸 齊藤正昭 讃井将満 大塚祐史 飯塚悠祐
指導補助者	八木街子 村上礼子

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

21 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験を行う。

f. 科目取得状況

6/6 名

(46). 持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 I

g. スタッフ

指導者	苅尾七臣 清水勇人 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 山本慶 讃井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子
指導補助者	福田順子 鈴木美津枝 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 梶原絢子 長谷部忠史

h. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

i. 時間数

48 時間

j. 研修方法

講義(e ラーニング)

k. 評価方法

筆記試験を行う。

1. 科目取得状況

8/9 名

(47). 持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、 K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 II

a. スタッフ

指導者	苅尾七臣 清水勇人 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 山本慶 讃井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子
指導補助者	鈴木美津枝 福田順子 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 梶原絢子 長谷部忠史

b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況

6/10 名

(48). 精神科薬物療法と看護Ⅰ (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 西依康 佐藤伸秋 川合謙介 大谷啓介 岡島美朗 齊藤慎之介 讃井将満 塩塚潤二 崎山快夫 堤内路子 草鹿元 伊古田雅史 村上礼子
指導補助者	石井慎一郎 鈴木美津枝 永井優子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

c. 時間数

46 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

最終回の筆記試験で 60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。(ルーブリック参照)

f. 科目取得状況

3/4 名

(49). 精神科薬物療法と看護Ⅱ (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 西依康 佐藤伸秋 川合謙介 大谷啓介 岡島美朗 齊藤慎之介 讃井将満 塩塚潤二 崎山快夫 堤内路子 草鹿元 伊古田雅史 村上礼子
指導補助者	石井慎一郎 鈴木美津枝 永井優子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 長谷部忠史

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断ができる。

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

4/5 以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する(ルーブリック参照)。

f. 科目取得状況

0/5 名

(50). 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 I

a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 翁家国 藤井博文 山口博紀 前川武雄 賀古真一 仲宗根秀樹 村上礼子
指導補助者	小原泉 鈴木美津枝 飯塚由美子 奥田泰考 里光やよい 森山海美 長谷部忠史

b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

c. 時間数

28 時間

d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

1/1 名

(51). 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 II

a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 翁家国 藤井博文 山口博紀 前川武雄 賀古真一 仲宗根秀樹 村上礼子
指導補助者	小原泉 鈴木美津枝 飯塚由美子 奥田泰考 里光やよい 森山海美 長谷部忠史

b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

c. 時間数

12 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況

1/1 名

研究報告

教職員

・受賞

1. 第 12 回医療教授システム学会総会・学術集会
ポスターセッション優秀賞 八木(佐伯)街子

・論文

1. Machiko Saeki Yagi, Reiko Murakami, Shigeki Tsuzuku, Mitsue Suzuki, Hiroshi Nakano, Katsuaki Suzuki (2020) Distance Learning for Nurses: Using Learning Analytics to Build a Learning Support Program .The Journal of Information and Systems in Education, 19(1) ;1-8.
2. 鈴木美津枝, 関山友子, 八木(佐伯)街子, 村上礼子(2020) チーム医療を推進するための教育的方略の検討-看護師特定行為基礎実習Ⅱの学びと実践への活用から-. 自治医科大学看護学ジャーナル, 18, 11-25.
3. 村上礼子, 春山早苗, 八木街子, 鈴木美津枝, 江角伸吾, 小谷和彦(2021)へき地医療拠点病院に対する看護師特定行為研修の受講促進に向けた新たな提案—看護管理者の期待と特定行為研修の受講状況から—. 日本ルーラルナーシング学会誌. 16: 11-17.

・学会発表

1. 9th International Conference on Data Science and Institutional Research(IIAI-AAI)
Machiko Saeki Yagi, Mitsue Suzuki, Shigeki Tsuzuku, reiko Murakami: Orientation courses to promote self-regulated learning affect learning planning and execution
2. The International Meeting on Simulation in Healthcare 2021 (2021 年 1 月 19 日 - 2021 年 3 月 15 日)
Machiko Saeki Yagi: Blended Learning was Integrated into the Clinical skills of Nurses
1. 第 52 回日本医学教育学会大会(2020 年 7 月 17 日～18 日)
八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 都竹茂樹, 村上礼子, 浅田義和, 中野裕司:看護職の遠隔学習における学習成果と自己調整学習方略
2. 第 12 回医療教授システム学会総会・学術集会 (2020 年 8 月 22 日～23 日, オンライン開催)
里光やよい, 村上礼子:「特定行為に係る看護師」の気管カニューレ交換による患者・家族への貢献
八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子, 都竹茂樹, 中野裕司, 鈴木克明:遠隔学習における看護職の自己調整学習方略の傾向分析
3. 第 40 回日本看護科学学会学術集会 (2020 年 12 月 12 日～13 日, オンライン開催)
八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子:遠隔学習オリエンテーションが自己調整学習循環に与える影響
4. Moodle moot 2021(2021 年 2 月 18 日～20 日, オンライン開催)
八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 村上礼子:看護師特定行為研修での moodle の活用-5 年間で振り返って-

研修生

・学会発表

1. 第2回日本在宅医療連合学会大会(2020年6月27日～28日、web開催)

シンポジウム58 在宅医療を支える地域資源としての特定行為研修修了者の活用と展望

木下真里 「特定行為研修制度を修了した訪問看護師の活動」

2. 第17回日本褥瘡学会九州、沖縄地方会(2020年10月31日:久留米シティープラザ 福岡県久留米市六ツ門町)

池田由美 在宅療養における認定看護師の役割と展望～多職種連携により在宅褥瘡ケアが可能となった症例～(口頭演題)

3. 第22回日本救急看護学会学術集会(2020年12月1日～12月31日 Web開催)

吉野暁子, 鈴木海馬, 栗田浩樹:感染性心内膜炎による細菌性脳動脈瘤破裂症例の初期対応を経験して(示説)